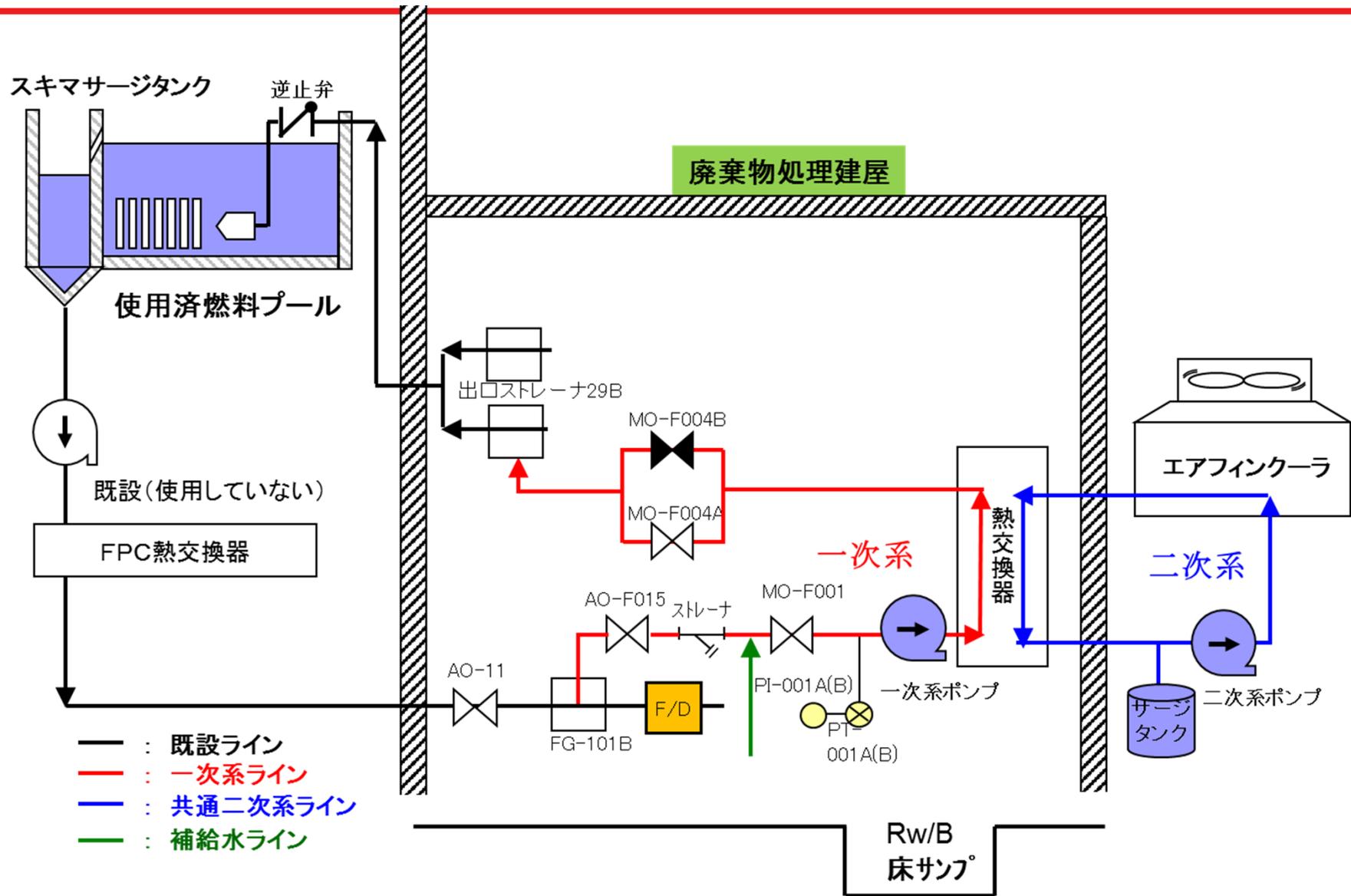
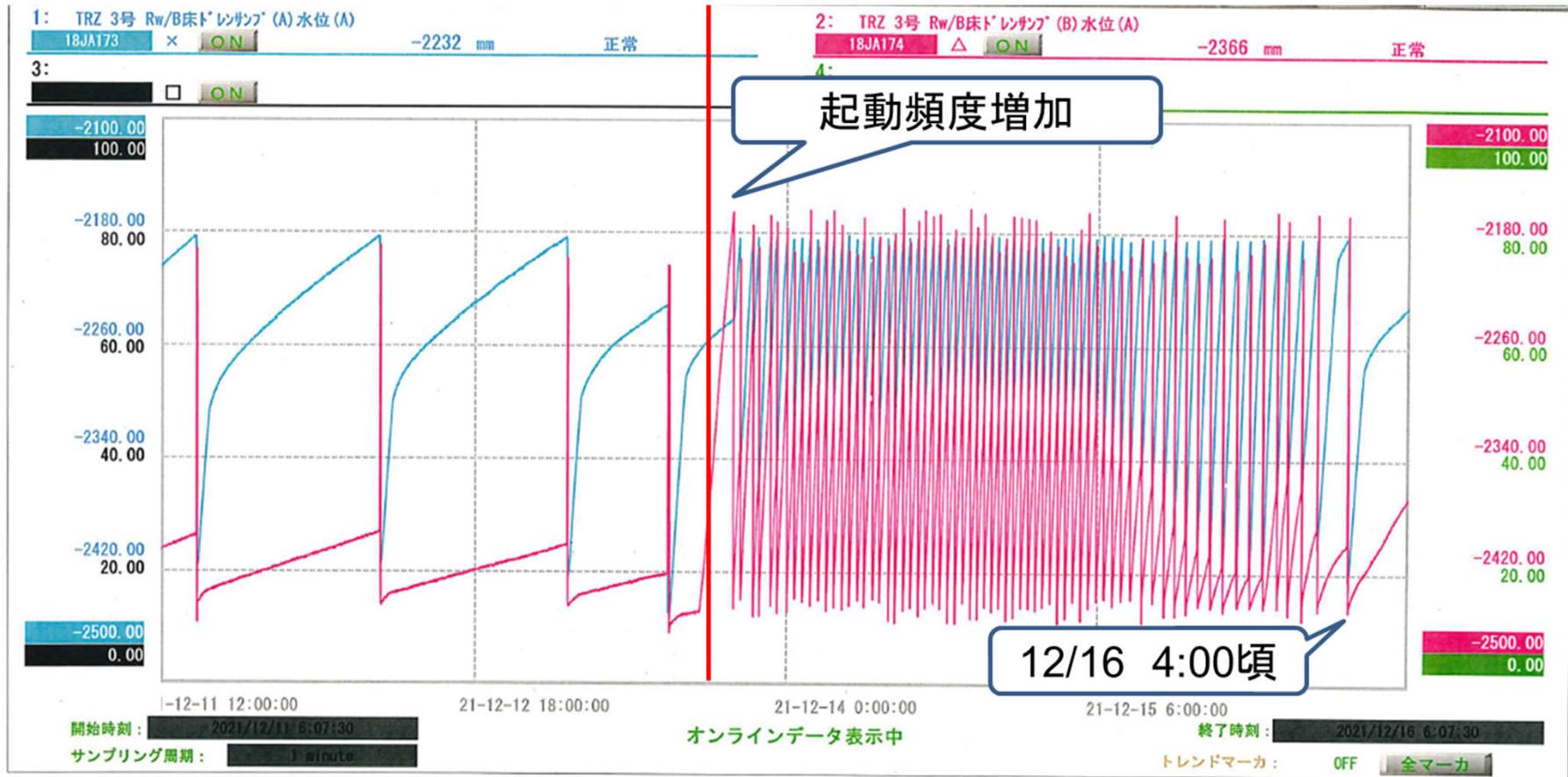


- 3号機使用済燃料プール（以下,SFP）については、2021年2月28日に燃料の全数取り出しが完了したことから、12月13日から12月15日にかけて、SFP循環冷却系二次系配管の切り離し作業を実施しました。
- 12月15日午後2時30分頃に切り離し作業が終了したことから、3号機SFP循環冷却系一次系を復旧するため、同日午後2時44分にシステム入口弁を「開」操作したところSFP循環ポンプ入口の圧力が低下していることを確認しました。
- 当該ポンプ入口の圧力が低下する原因として、周辺配管からの水漏れやスキマサージタンクの水位低下の可能性が考えられたことから、当社社員が現場調査を行いました。調査の結果、SFP循環冷却系一次系の配管（スライド2赤線部分）に漏えいがないことを確認しました。また、SFP水位がオーバーフロー水位付近にあり、水位が確保されていることを確認しました。
- その後の調査において、3号機廃棄物処理建屋床ドレンサンプポンプの運転頻度が12月13日から15日にかけて増加していること、および床ドレンサンプに流入した水量と一次系停止時のスキマサージタンクの水量が同程度であることを確認したことから、本日午後4時15分スキマサージタンクの水位が低下している可能性があることを確認しました。今後、系統のバルブと配管等の状態等について現場調査を行い、ポンプ圧力低下の原因を特定するとともに、適切に対策を講じてまいります。
- なお、構内の放射線モニタやモニタリングポストに有意な変動が無いことを確認しております。



12/13 9:48系統停止



起動頻度増加

12/16 4:00頃